

---

# ISの世界からゼロ魔の世界へ

古手雅樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ISの世界からゼロ魔の世界へ

### 【Zコード】

N1067BA

### 【作者名】

古手雅樹

### 【あらすじ】

ある日古手が神様の勝手な行動によりISの世界からゼロ魔の世界へ

飛ばされてしまつ

古手「もう勘弁してくれ」

この作品は転生先はインフィニットストラトスリメイクのエフで

暇な時に気分で更新していきます

## 第1話 ぶるるーぐ

古手「……はどこだ？俺は確かに寝てたはずだが……」

真っ白だ・・・

神「よつ」

古手「ん？なんだ神様か何か用ですかい？」

神「ちよことこの世界に飛ばされてみな

そいつするとアの穴が開きこつも通り落ちる

古手「不幸だああああああああああ」

トリステイン王國中庭

アンリエッタ「中庭での紅茶は美味しいです」

そこには一つの流れ星が空から降る

アンリエッタ「まあ！流れ星！」

「……女王陛下お下がりください……こちらに向かってきます……」

アンリエッタ「なんですかー！」

一つの流星が近くの湖に落ちる

ドーン

アンリエッタ「あやこ・・隊を集め私とともに湖へー！」

「はーー！」

ひつて運命のせぐらませ動き出す

## 第1話　ぶひひーぐ（後書き）

こんばんわ・・・そして・・・やつちましたww

## 異世界との出会い

アンリエッタサイド

大きな湖に1つの流星が落ちてきて私は見に行つた  
そこには大きな人形が落ちていた

アンリエッタ「これは・・天使ですか？それとも人形・・それとも・  
・人？」

そこにお腹らへんから何か開いて1人の男性が湖に落ちる

バシャーン

アンリエッタ「！その者を城へ！」

「はっ！」

こうして見知らぬ人を城へ置いていこうとしてその人が動かしていた  
天使のような背中に大きな翼大きな人形を動かそういとしたら  
それが光りだし小さくなつてその男性の腕にはまる

アンリエッタ「これは！」

こうして見知らぬ人は城の中へと連れて行つた

古手「ん・・・」  
「

古手はとある一つの部屋にいる

ティエリ亞「気がついたか」

セイは王宮みたいな、部屋で古手は田を覚ました

ティエリ亞「お前はあのあと氣を失つて田を覚ました」  
セイ

古手「了解把握した」

そこに一つのドアが開く

ガチャ

「あら氣がついたのですね」

古手「貴女は・・・」

「私はアンリエッタ・ド・トリスティン、この王国の女王です」

古手「（とみつ）とは、魔の世界か）俺は古手雅樹」

アンリエッタ「貴方は何者ですか」

古手「異世界から来たって言つても無駄か」

「ならじであります。」

古手「あんたわ？」

「私はアーネス」

古手「俺はこれから魔法学院に行こうと思つ」

アーネス「魔法学院に？」

古手「そこに用事があるからだ」

アンリエッタ「なら、今度魔法学院に行きますから」一緒に・・・」

古手「護衛と監視としてついてことへいだらう助けてもらつた  
お礼をしたい」

アンリエッタ「ありがとうございます」

魔法学院サイト

オスマン校長「これは・・・コルベール殿女王陛下がくれたのですね」

「ゴルベール先生」「おおー！ そうですか！ それならおもてなしを考えなければ」

オスマン校長「ぬ？？？ 今日は王宮からも何かしら見せ物があるらしいぞ」

「ゴルベール」「なんでじょうかね楽しみです」

「2人が和んでるその瞬間

「どつかーん

オスマン校長「・・・また、ミス・ヴァリエールかのう・・・」

「ゴルベール」「・・・そうですね・・・」

「ルイズサイド

「サイト」「ザザああああああああ

「ルイズ」「このバカ犬！――！」

## 異世界人との出会い（後書き）

短めで後々修正しながら文字数を増やします

## 設定事項（前書き）

機体においての設定です

## 設定事項

名前 古手雅樹

外見 バカテスの秀吉と同じ

性別 男性

所属 なし

体 S E E D 純粹種のイノベイター（スキル別）

極限までの体の強化

（）は変形として使える機体

たまに女装をするが女装すると周りの人たちを血の海にさせることもあるので

あまりしないが それにしてもこの本人ノリノリであることがわかつた

使用機体

ダブルオーライザー  
(ダブルオーガンダム  
ダブルオーガンダムセブンソード)

ストライクフリーダム  
(ミーティア)  
インフィニットジャステイス  
(ミーティア)  
ゴッドガンダム風雲再起  
(ゴッドガンダム)

ガンダムHWS  
( ガンダム)

V2ガンダムアサルトバスター  
(V2アサルトガンダム  
V2バスター・ガンダム)

ガンダムエクシア  
(セブンソード・アヴァランチエ)

ウイングガンダムゼロ (EW)

ガンダムデスサイズヘル (EW)

ヘビーアームズ改 (EW)

ダブルオークアンタ

フリーダムガンダム  
(ミーティア装備)

ガンダムアストレア

アンリエッタサイド

アンリエッタ「今回私の友人が使い魔契約のお披露目会なんですがそれを絶対に身に行こうかと思いまして」

古手「そうですか、ちなみにそのお披露目会はいつですか?..」

アニエス「明日だ、なので明日の朝移動開始する」

古手「了解、それでは明日、田の門にてお待ちしております」

アンリエッタ「どうへ行くのですか?」

古手「そちらへんの所で野宿しようとかと」

アンリエッタ「それなら部屋をお貸しします」

古手「いいのですか?」

アンリエッタ「構いません、アニエス部屋の案内をお願いします」

アニエス「わかりました」

移動中の出来事

古手「すまんな」

アーネス「かまわない、姫様の命令ならば」「

古手「そつか・・・」

ちょっと歩いた後1つのドアで立ち止った

アーネス「こーじだ」

古手「どいつも」

アーネス「それでは明日朝お迎えに来ます」

古手「ああ、わかつた、それじゃおやすみ」

アーネス「おやすみ」

がちゃん

こうして古手は部屋に入りティエリアに呼び掛ける

古手「ティエリア、ちょっとといいか?」

ティエリア「どうした?」

古手「MSHISについてちょっとといいか?」

ティエリア「機体には異常はない」

古手「いや、そういう意味じゃなくて、巨大な人形で・・・」

ティエリア「ああ・・神の仕業かどうかエISタイプとMSタイプ両方できるようになつていてる」

古手「・・・神様・・・どんだけ暇人なんだよ・・・」

ティエリア「しかし1回使用した機体は明日一日できなくなるから注意するよつに」

古手「了解」

こつじて2人はベットに入り明日の朝に備える

ちゅんちゅん

ドンドン

古手「ん・・・」

ドンドンドン

古手「はいはーい・・・」

ガチャ

「おはよー、朝食の時間だ」

古手「了解ちょっととまつてくれ」

「わかった」

古手の着替えが終わり朝食を取り城の門へ行く

アンリエッタ「さて、行きましょう」

古手「そうですね」

そいつすると古手はティエリアに向ひ

古手「ティエリア、フリーダムをHSモードで展開」

ティエリア「了解、フリーダムをHSモードで展開」

古手の周りが光だし自由の翼が光から出でくる

アンリエッタ「まあ・・・今度のはなんでしょう?」

古手「この機体はフリーダムガンダム」

アンリエッタ「フリーダムガンダムですか」

ティエリア「我々の世界ですとフリーダム・・・自由と言います」

アンリエッタ「わい、こきまじょい」

アンリエッタ女王は陸から古事とティニアは空からトリステイン魔法学院へと移動する

たまにアンリエッタに近づいて手をふつたりして学院にむかった

サイト・ルイズサイド

「アンリエッタ女王陛下のおなーりー」

ルイズ「来たわよービシットしなわーーびしつヒーー」

サイト「わ、わかつたよ」

白い馬車から下り白いドレスに紫のマントで降りた女性が  
オスマン校長の所へ行くそこへ一人の男性を見つけた

サイト「あれ・・?」

ルイズ「どうしたの?」

サイトは1人の男性に指をさす

サイト「あれ、俺と同じ世界の服

ルイズ「つーそなーー」

サイトは1人の男性の所へ行こうとする

ルイズ「待ちなさいよ！今動いたらダメでしょ！」

サイト「もう・・・わかったよ」

こうして同じ世界の服を着た1人の男性と会えぬまま夜を迎える

## 使い魔お披露目会（後書き）

今回もまたさう後々から続きを書いていきます

## 破壊の杖（前書き）

今回ばかりはセツツの前に序説をなしでやつてみました

## 破壊の杖

古手サイド

今現在俺は学園から離れた場所から会場からの合図を待っている

『次はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエールです』

『がんばれーゼロのルイズー！』

という応援みたいな掛け声が聞こえ後々から笑い声が聞こえる

「そろそろかな」

「そうだな」

古手はルイズを最後に合図が来ると想い  
準備をする

「ティエリアウイニングガンダムゼロ（EW）をヒュモードで展開」

「了解、ワイングガンダムゼロ展開」

古手の周りにやわらかい白い翼が出来  
赤青白のトロコロールの機体が出来る

バサツ

「ティエリア、機体チェック」

「大丈夫だ、問題はない」

「わかった」

ちょうど機体のチェックが終わったことに会場からの打ち上げ合図が打ち上げられ機体を会場に向かってブーストをかける

ズドーン！

「ああ！ 行くよ！」

サイトサイド

やつと俺たちの出番が終わり今度は王宮から見せ物があると

「みなさん今田はありがとうございます、今日はわたくしからの見せ物があります」

学園じゅうからわめきができる、女王陛下が指をさす

「あちらを見てください、・・・行きます！」

大空に大きな光を打ち出す

「つまつまぶしつ」

そこに聞きたかった一つの音が聞こえてきた

「……」の音・・ジヒツ機?」

「ジヒツ機?なんのよサイト」

「ジヒツ機は外部からの空気を熱エネルギーに」

「ああもうこいつ、長くなつたから」

そして一つの天使が来た

「あ・・・あれば!」

「サイトあれを知ってるの?」

「あれは俺たちの世界のアーメと言つ奴から出来てる奴なんが・・・

「わうなの?」

「でもあれは現実化はできないはずだが・・・

サイトが話してる間にその一つの天使が女王の上に止まつた

古手サイド

「やっぱ注目はされてるな」

「それはしかたないとおもう」

「そうだな」

古手は一人の男性に近づき近くに降りた

ふわっ

ザツザツ

「お・・・おまえ・・お前もこの世界に飛ばされてきたのか？」

と言われたので普通に答える

「まあ簡単に言つとしだな」

「そうか、俺は平賀才人よろしく

自己紹介されたので

古手は顔の所に手を置いて仮面を外し  
同じくこっちも自己紹介し握手を交わす

「俺は古手雅樹、よろしく

サイトはちょっとポカーンとなつて一言

「え・・えつと・・女の・・」

そこで俺は大きく息を吸つて

「俺は男だああああああ！」

と叫んでしまつた

「あああっ！すまん！そう言われるとこりつなるんだ」

「そ・・・そ・う・の・か・・スマ・ン」

古手殿

「……」  
「……」  
「……」

「了解しました」

「じゃあまたあとで」

ついして別世界の転生者と異世界に飛ばされた者が出会つた

古手の紹介が終わりちょっとした後サイト達と合流し話ながらルイズの部屋に移動していく

「せういえばお前どこのから来た?」

「俺は神奈川って言えればわかるか？」

「まじか！案外近いな俺は東京だ」

「ちよつとそこじどりよ」

「まあ、こいつが教えるよ」

「こうして和みながら学園の中を歩いてると右腕の腕時計からティエリアが出てきた

「雅樹、近くに生体反応右だ」

「了解！」

「誰だ？」

「俺の相棒だ！」

古手はサイト達にティエリアの事について直ぐに反応があつた所に向かつた

「はあはあはあ・・・・・・・・

近くごとに動く石像が見えてきた

「つづーあれはー、「一レムー」

そこにサイトの剣が喋った

「相棒！引け！」

そこに古手は

サイトは古手の事をスルーして剣を引く

## 破壊の杖（後書き）

またあとで更新します  
www

## 破壊の杖の搜索

「ゴーレムがルイズ達に気がついて攻撃を仕掛けてきた

ズシンズシン

「来るぞ！」

古手はガンダムアストレアになり左足を切り

サイトはデルフリンガーを抜いて右足を切る

ザツシュザツシユ

しかし足はすぐに回復したがそこにルイズが呪文を唱える

「ファイアーボール！」

ドッカーン！

しかしあたりは宝物庫の方にあたってしまい壁が壊れる

「つーしました！」

「破壊の杖は貰つて行くよ！」

そこにはサイトが追つていいくが

「サイトー・追うなーまず安全確認が必要だー！」

「つー・わかった」

しかし古手が追う事をやめた事にルイズが怒った  
「どうしてよー！」

「窃盗事件でもその間に姫様がなにかあつたらどうするんだよー！」

そう言われルイズは冷静になり周りを見る  
古手はそこに一つの紙を見つけた

「これは・・・」

古手が紙を拾いサイト達を集めて学園長室に移動した

「なんと・・そつか・・」

「といひとで俺はフーケを追います」

「そつかー追つてくれるかー！」

「ああそれが俺の仕事だな」

「やうか、頼む」

こうしてルイズ・サイト・タバサ・キュルケ・古手・ロングビルの6人で行くことにした  
ちなみに古手は女王からの直属の命令で学院にいることになった

フーケを探してゐる途中

「自己紹介まだだつたな、俺は古手雅樹、  
そこにいる平賀サイトとほほ（・・）同じ所から来た」

「マサキつてすゞこわね、平民なのによく飛べるわね」

「これは科学だよ魔力じゃなく違うエネルギーで動いてる」

「ふうん・・」

「違うエネルギー？電気か？」

サイトが質問してきてすぐに答えなかつたが2秒後答えた

「電気もあれば核で動いてる」

「核だと！大丈夫なのか？」

「大丈夫だよ、そこには厳重にしてる」

「そつかよかつた」

「ねえ！あそこー！」

ルイズの指差した方向に小さな小屋を見つけた

「俺が先に行く」

「わかつた頼む」

サイトが窓から見て

古手がゆっくり近づいてドアに近づいてノックしてゆっくりドアを開ける

ギイ・・・

「大丈夫だ」

そこにルイズとロングビルが家から離れていく

「ルイズ！」

「私は外を見張ってるわ」

「わかつた」

「ヴァリエールさん！」

ルイズが足を止め古手の方を向く

「大丈夫だ小屋の中に杖はあるから」

「わかつたの！？」

「ああ、その箱の中に杖あるから

「なら早く言いなさいよ

「タバサさん、シルフィードさんを呼び出して

「わかった」

シルフィードを呼び出し小屋の前で止まる  
そこに古手が一つの箱から破壊の杖の箱を取り出し  
ルイズに持たせる

「任務完了ね」

「結構簡単だつたわね」

「そうだな早く戻つて・・ルイズ！後ろ！」

ルイズの後ろにゴーレムが出来ルイズに襲いかかる

「くつ！ファイアーボール！」

ぼひゅ

「何やつてゐるのよーファイアー！」

ボオオオオ

キュルケとタバサが魔法で何とかするが効果があまり聞かないようだ

「つ！任せろ！ヴァリエールさん！破壊の杖をサイトに！  
サイト！それを開け！お前なら使えるはずだ！」

「つ！わかつた！ルイズ！」

「わ・・わかつたわ！サイト！」

破壊の杖のケースがサイトに渡りケースを開ける

「つ！これは！おい！古手！こいつは！『いいから使え！』  
・・わかつた！」

力チャ力チカチカチカチカチヤ

「ルイズ！！耳をふさいで伏せろ！」

ルイズはとつさに耳を塞ぎしゃがんだ

ドン！ ドッカーン！

サイトは撃つて当たつた瞬間ルイズをかばい飛んでくる杖から  
備える

パラパラパラ

「大丈夫か？」

「ええ大丈夫よ」

すぐさまキュルケが飛んでくる

「スッゴーイ！ 破壊の杖を扱えるなんて！ · · · 待ってゴーレムがいる事はフリークがいるんじゃ · · · 」

そこにロングビルが現れて破壊の杖を拾う

カチャ

しかし拾つた瞬間ロングビルに一つの銃口が向けられた

「え？」

銃口を向けたのは古手だった

「何やつてゐるのかな · · · ミス・ロングビル · · · いや、土くれのフリーク！」

「なつ！ 何を言つて！」

「じゃあ！ 何であるの時小屋に居なかつたのかな？ かな？」

「あの時はミス・ヴァリエールだけが · · · 」

「あれれ？ 僕はヴァリエールさんに聞こえるように大きな声で、普通は聞こえるはずだよ」

「つづーーーのーーー食らえー！」

フリークがサイトが使ってた物で狙いを付けるしかし · · ·

カチッ

「え？」

カチカチ

「ハツ！」

ドカツ！

「グハツ」

「悪いねその武器は単発式でね、ロケットランチャーといつ・・・俺達の世界の武器だ」

フーケは氣絶をし古手達は破壊の杖ロケットランチャーを回収をし

学園に戻った

「フーケは城の兵に引き渡し破壊の杖も宝物庫に収まった  
一件落着だ、君たちのおかげじゃ、今日の宿場会の主役は君たちじ  
や」

「当然ですわ」

「今回の一軒は王室も高く評価してくれ  
る王室からなんなかの報償がある」

「王座からの報償ですか？…す」「…」

しかしレイズは有ることを気付く

「3人と言つ事はサイトとマサキは…・・・」

「残念ながら君たち2人は貴族ではないのでな

「そうですか・・・」

レイズががっかりするしかしサイトは

「別にいらないですよ」

しかし古手は「んな」と言つた

「俺は出来たら一つの小屋が欲しいな機体の簡易整備とかしたいし

「小屋か？なら明日作らせよう」

「ありがとうございます」

「えつと校長先生ちょっと聞きたい事が」

「うむ」

「ついでフーケの一軒の出来事は終わった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1067ba/>

ISの世界からゼロ魔の世界へ

2012年1月14日16時28分発行